

鬼北町立愛治小学校 令和6年度12月

4: そう思う 3: どちらかと言えばそう思う 2: どちらかと言えば思わない 1: 思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値	目録表	学校による考察と改善方策		評価資料		アンケート結果(96)							
				考 察	改 善 策	評価	4	3	2	1	肯定率	全体肯定率			
ふるさとを愛する心	ふるさとの理解	ふるさとのことを素材として学習を進めることで、故郷の良さを知ることができた。	児童・保護者・教職員	A	・前期同様、四者共に肯定的な評価となっている。特に、保護者、教職員、地域有識者の評価が向上している。 ・各学年とも、総合的な学習の時間、生活科を中心に愛治地区の魅力や先人の思いに触れる学習を展開し、故郷の魅力について知識を深めたり、意識を高めることができた。 ・学習発表会で「ふるさと学習」の成果を発表することで、保護者、地域の方から高い評価を得ることができた。	①本年度の活動内容を振り返ることで、継続していく点や改善点を精査し、各学年のねらいに沿ったよりよい学習指導計画となるよう見直しを行う。 ②学校運営協議会や地域の各種団体との連携によって、新たな教材の開発や学習手法の改善を進めていく。	児童アンケート	A	77	23	0	0	100	100	
	地 域 の人々との交流	ふるさと学習や体験活動などに地域人材を活用することで、地域の人々との交流を大切にする気持ちが育っている。	A	・前期同様、四者共に肯定的な評価となっている。特に、保護者、教職員、地域有識者の評価が向上している。 ・総合的な学習や生活科の学習内容を「学習発表会」で発表することで、保護者や地域の方と学びを共有することができた。 ・各学年の学習指導計画に沿って、地域の方を講師に招いたり現地学習を行ったりすることで、地域の方との交流を深めるとともに、故郷への思いに触れることができた。	①今後も多くの地域の方から学び、故郷への思いを感じ取ることができるよう交流を継続するとともに、新たな人材の活用に努める。 ②地域の方を講師としてお迎えするだけでなく、以後も児童との交流が継続できるよう、行事への案内等、更なる連携手法を検討する。	保護者アンケート	A	63	37	0	0	100			
						教職員アンケート	A	83	17	0	0	100			
						地域有識者アンケート	A	90	10	0	0	100			
ふるさとを愛する心	ふるさとへの思いと誇り	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立ちとうとする心が育っている。	A	・前期同様、四者共に肯定的な評価となっている。特に、教職員、地域有識者の評価が大きく向上している。 ・学習発表会や各学年での「ふるさと学習」における児童の発表内容や感想等から、愛治の魅力を感じ取ることで、児童のふるさに誇りを持ったり、大切にしようとしたりする気持ちの高まりが感じられる。 ・五ツ鹿保存会に入会する卒業生が生まれるなど、これまでの継続した取組が子どもたちの心に根付いていると感じる。	①今後も、学習発表会を中心に、児童が学んだ成果を発信していくことで、児童の「ふるさと学習」への意欲を高めていきたい。 ②「ふるさと学習」で学んだ成果をしっかりと振り返り、まとめることで、児童のふるさとへの思いを確認させ、将来の行動力につなげられるよう工夫していく。	児童アンケート	A	54	38	8	0	92	98		
						保護者アンケート	A	50	50	0	0	100			
						教職員アンケート	A	50	50	0	0	100			
						地域有識者アンケート	A	90	10	0	0	100			
学校運営協議会委員の所見				学校の対応				○生活科や総合的な学習の時間を中心に、年間を通じて、地域の方をゲストティーチャーとして迎えたり、地域に出向いて学習する活動を行っており、地域の方の力に支えられて学習活動を進めている。 ○今後も、新たな地域の方との連携手法や継承していきたい故郷の様々な学習資源を探りながら、児童のふるさとを大切にする心を高めていく。							
○愛治地区PTA研究大会での各学年の発表から、子どもたちが地域に大変関心を持ち、生き生きと学習している様子を伺い知ることができた。地域住民も発表からふるさとの良さを再認識させられた。 ○地域で活動している団体や公民館を交えての高学年の総合的な学習の時間の授業に参加した。様々な地域の人との交流を深め、今後もふるさとを大切にする心を育てて欲しい。 ○しっかりと年間計画に基づいた学習を進めている成果が表れていると思う。児童のふるさとを愛し、役立ちたいという気持ちも徐々に育っていると感じる。															

令和6年度 後期学校評価 学校評価報告書

鬼北町立愛治小学校 令和6年度12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察と改善方策		評価資料	評価	アンケート結果(%)					
		評価指標	目標値		考 察	改 善 策			4	3	2	1	肯定率	全体肯定率
互いを大切に する心	自他を尊重する心	縦割班活動など異学年集団の交流を通して、友達の理解を深め、仲良く過ごすことができている。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・前期同様、四者共に肯定的な評価となっている。特に、保護者、教職員、地域有識者の評価が向上している。 ・縦割り班活動や集会、全校給食、清掃など様々な場面で支え合い、協力し合う好ましい集団が形成されている。 ・高学年の児童が自発的に低学年の教室を訪れたり、読み聞かせを行ったりするなど、新たな交流の機会を持つことができている。	①小規模・少人数の良さを生かすことができるよう、様々な活動や行事、交流の手法を工夫することで、児童一人一人が生き生きと活動することができる集団を目指していく。 ②児童が考え、主体的な活動が増える校風を、子どもに任せる場面を意識して作ることで醸成していく。	児童アンケート	A	92	8	0	0	100	100
				保護者アンケート	A	63	37	0	0	100				
				教職員アンケート	A	67	33	0	0	100				
				地域有識者アンケート	A	80	20	0	0	100				
	気持ちのよい挨拶	返事やあいさつ、言葉遣いなどの基本的な生活習慣を身に付けることができている。	A	・前期同様、四者共に肯定的な評価となっている。地域有識者の評価が高くなっているが、保護者、教職員の評価はやや低下している。 ・挨拶については、2学期以降、元気のよい挨拶をする児童が増えており、教員の評価も高い。 ・礼儀正しい行動を取ることはできているが、児童同士の日常の言葉遣いについて指導を要する場面が見られる。	①挨拶への意識は高まっていると感じる。「いつでも・どこでも・全員で」を目指して、全体で指導を継続していきたい。 ②友達同士の言葉遣いや不適切な言葉の使用について振り返ることで、気持ちの良い接し方ができるよう指導を継続していく。	児童アンケート	A	77	15	8	0	92	98	
						保護者アンケート	A	25	75	0	0	100		
						教職員アンケート	A	50	50	0	0	100		
						地域有識者アンケート	A	60	40	0	0	100		
	個に応じた指導	先生が困ったことや悩みなどを聞いてくれたりアドバイスをしてもらったりすることで、楽しい学校生活を過ごすことができている。	A	・全体的に肯定的な評価となっているが、保護者、教職員の評価が低下している。 ・教師全員が全校児童を見守る態勢に努めており、温かく接することができている。 ・養護教諭やスクールソーシャルワーカーとの連携によって、児童の思いを汲み取るとともに、多面的な理解を深められるよう継続した取組を行うことができた。	①自分から悩みや困りごとを相談することができにくい児童もいると思われる。児童の変容や早期に気付き・対応するとともに、相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ②教職員の共通認識の基、児童に寄り添いながら、自ら判断し正しい行動がとれるよう継続した指導に努める。	児童アンケート	A	73	27	0	0	100	96	
						保護者アンケート	A	38	50	12	0	88		
						教職員アンケート	A	17	83	0	0	100		
						地域有識者アンケート								
学校運営協議会委員の所見		○小規模校、少人数の良さを生かした授業や行事、交流を通して、互いを思い合う心が育っていると感じる ○朝、ラジオ体操をしていると、児童が挨拶してくれる。以前より大きな元気のよい声で挨拶ができるようになってきている。 ○子供同士の何気ない会話の中に、気になる言動がある。 ○子供たちと校内で出会うことはあまりないが、登下校中に会う時の笑顔と挨拶が最高に良い。また、先生が子供たちに接する際の笑顔が印象的であった。				学校の対応		○挨拶について、児童会を中心として取組を進めることで意識の向上に努めてきた。今後も「いつでも・どこでも・全員で」を目指して、指導を継続していく。 ○友達同士の言葉遣いや不適切な言葉の使用について振り返ることで、気持ちの良い接し方ができるよう指導を継続していく。 ○地域の方と児童との交流の機会が増えるよう、参観日や校内行事の際には地域の方への案内や周知を拡充していく。						

鬼北町立愛治小学校 令和6年度12月

4: そう思う 3: どちらかと言えばそう思う 2: どちらかと言えば思わない 1: 思わない

学校の対応

鬼北町立愛治小学校 令和6年度12月

4: そう思う 3: どちらかと言えばそう思う 2: どちらかと言えば思わない 1: 思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察と改善策		評価資料	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値		考 察	改 善 策		評 価	4	3	2	1	肯定率	全体肯定率
資質・能力向上	現職教育・研修活動	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修に励み、授業改善や指導に生かすことができた。	教職員の平均肯定率が85%以上	B	・ICT活用教育推進校研究発表会の開催や各種研修会への参加によって、研修内容や授業改善に深まりが見られた。	①研修によって得られた知見を授業実践に生かすことができるよう。活用の手法について更なる研修に努める。	教職員アンケート	A	50	50	0	0	100	93
	危機管理体制	危機管理意識を高く持ち、速やかな報告・連絡・相談を徹底することができた。			・報告・連絡に努めることで、課題に対して連携して早期に対応することができている。	①今後も報告・連絡・相談を密に行うことによって、事故等の未然防止に努める。 ②教職員の共通認識の基、児童に寄り添いながら、自ら判断し正しい行動がとれるよう継続した指導に努める。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100	
	働き方改革	温もりと規律ある協働体制を整えることで、勤務時間の削減とともに教職員の資質・能力の向上や人材育成ができた。			・概ね時間外勤務が80時間を超えることなく勤務することができた。今後もより効率的な業務の進め方を工夫し、ワーク・ライフバランスの充実を目指したい。	①行事の見直しや業務の簡素化、ICTの効果的な活用に努めることによって、教職員の負担軽減につなげる。 ②今後も継続して全教職員が一体となって共通理解・共通実践を心掛け、チームとして課題に取り組むことによって、児童との触れ合いの時間や業務の充実を図りながらワーク・ライフバランスを実現できるよう、教職員の意識改革に努める。	教職員アンケート	B	50	33	17	0	83	
	情報公開	学校等の取組を積極的に発信するとともに、個人情報保護・管理の徹底に努めた。			・学習発表会など地域との交流の機会が戻り、児童の活動を見ていただいた。児童の成長の様子を知っていただくとともに、児童の活動の意欲化を図ることができた。 ・学校だより等、各種通信によって、学習活動や児童の成長の様子を家庭・地域に発信することができた。	①学校運営協議会や地域コーディネイター、PTAとの連携強化に努め、一体となって児童の成長を支援していけるよう新たな活動を検討していく。 ②今後も学校ホームページや各種通信によって、児童の活動や成長の様子を発信することで、地域に親しまれ、信頼される学校を目指して取り組んでいく。	教職員アンケート	B	33	50	17	0	83	
	資質向上	目標チャレンジを意識して活動に取り組んだ。			・各自が設定した目標を意識しながら教育活動を進めることで、前期より自己評価を向上させることができた。 ・個々の教職員が取組状況を振り返り、報告・相談を通じて各自の資質向上に努めることができた。	①本年度の成果や課題を分析することで、次年度の効果的な教育活動につなげる。	教職員アンケート	A	50	50	0	0	100	
学校運営協議会委員の所見		○先生たちには、いつも地域のことを大事に思ってもらっており、ありがたいと感じている。 ○ICT機器の活用で授業構成・展開も急激に変化していることを痛感している。小規模校の良さや地域の特色を生かした学校づくりの成果が表れているようである。 ○他校と交流してのリモート学習などによって、学習の広がり・深まりが期待できる。鬼北町全体・更に他校との交流も進めて欲しい。				学校の対応	○今後も、地域と共にある学校として、地域の方や関係諸機関と連携しながら子供たちの学びが深まる活動を推進していく。 ○EILSを利用した学習課題の工夫や振り返りテスト等の利用など、ICTのより効果的な活用について研修を深め、主体的な学びや個に応じた学びの充実に努めていく。							